

育ててくださる方

ヨエル4：13～15

マルコ4：23～29

この世の中が変化して、発展し、人類が進化しているように見えます。ただ何が進化か退化かは分かりませんが、ある方向へと世の中が進んでいっています。それは勿論人間の業によって進行するところもありますが、それ以上に見えない力によってけん引されているような感じは疑い得ないでしょう。戦争や飢餓、災難などはいくら人間が賢く進化しても避けられないかもしれません。

ではわたしども人間は何ができるのでしょうか。人間の力で平和が築きあげられるのでしょうか。太古より人間は永遠平和を希求してきました。しかし争いが絶えることはありません。そのようなことを鑑みると本当に人間の無力さを感じずにはられません。そのような時に全能の主にて全てを委ねるといふ、信仰が助けとなるのです。この世を造られた方そして今も創造し続けられて関わってくださっているお方を信じて、私どもはそのお方との正しい関係を築き保ち続けるように努めていきたいのです。主なる神様と正しい関係にあるならば、主は私どもを憐れんでくださることでしょう。そのような神さまがこの世にイエス・キリストを通して福音をお与えくださったのですから、私どもはそれに聴き従い、また伝える使命があるのです。この世に蒔かれた福音の種は私どもを通してこの世に広がっていきます。福音伝道は私どもの働きを越えたところで広がっていきます。人間的知恵であくせくしたり、事業拡大の様な思いでもそれは小さな人間の業や思いにすぎません。父なる神様は御子をお与えになったことにより、ご自身でその救いの業を進め完成されるのです。弟子たちの中にもユダのように焦ってしまい、自分の思い描いたような社会の実現が程遠いと感じて失望してしまう者もいました。

神の国の実現には、忍耐をもって待ち望むことです。また希望を確かに持ち続けることです。神の国はイエス・キリストと共にこの世に到来して、それは神ご自身の力によって実現、完成するものなのです。私どもはそれを信じてひたすら待ち望むのです。世情を見ますと不安になることがあります。本当に神の国は実現するのだろうか。しかしこの世を造られ愛された神様はご自身で約束されて、この世に対して責任をとってくださいます。神の国は人の助けに依らず、確かに人を介してということはありませんが、ただ神様ご自身の力によって育ち完成に至るのです。聖書では、これを種の成長にたとえています。人の手を借りずとも地に蒔かれた種は、ひとりでに芽を出し茎を作り実るのです。ここで「ひとりでに」というのは「アウトマター」と言ひまして自動的にということです。オートマチックということで、オートマの自動車が何もしないでもスイッチを入れると進んでいくようなものです。また「アウトマター」を略すればATMです。銀行とかコンビニに行けばある物です。これは機械に向かって、ピッピッピッと操作すれば自動的にお金が出てくるのです。私どもはその機械のメカニズムが分からなくても使っています。どうしてお金が出てくるのか分かりません。分かるのは機械を設計して作った技術者、製作者でしょう。ですからわたしどもは種の成長のメカニズムが分からなくても、手を加えなくてもそれが自動的に成長するのです。

種の成長を知り、それを守り育ててくださるのは、種をお造りになった創造者のみです。私ども人間は種の成長の根本原理はわかりません。しかし知らなくてもそれを見て分かり利用しています。

よく種のたとえで出てくるからし種ですが、私もこれをもらったことがあります。本当に芥子粒くらいの大きさです。知り合いがイスラエル旅行してこのからし種を買ってきて庭の前に蒔いたのを見たことがあります。黄緑色の草木で二階までくらいに、3メートルくらいに成長していました。たまに小さな鳥が止まっているのを見て、聖書の世界を見ているようでした。大きなからし木に巣をつくる空の鳥とは、いわば異邦人のことでしょう。福音の種が蒔かれ神さまの力によって大きく成長した木に、異邦人が留まり、憩うこととなるのです。そして一粒の小さな種は大きな木へと成長して、何十倍もの実を付けることとなるのです。それが人の手を借りずとも自動的に、正確に言えば神さまの力によって実現するのです。

宗教改革者のルターはこのようなことを言い残しています。「私がここに座って、うまいヴィッテンベルクのビールを飲む、すると神の国がやって来る。」宗教改革という大事業を成し始めたのはルターであるという、歴史的認識がありますが、実はそれは神さまの業であって、神様が神ご自身の国を完成させるためにキリスト教を軌道修正されたのです。ルターはただそれに用いられた器にすぎないのです。因みに彼の奥さんのカテリーナはビールの醸造家であったので、ルターは奥さんの作った美味しいビールを飲みつつ、宗教改革を進めていったのでしょう。

私どもは歴史の動きの裏に、また偉業を成した人物の後ろに神さまの御手を見るべきであります。何よりもこの世に働きかける神様の力とは人間の目には見えない聖霊の力、働きです。私どもはその聖霊の働きに全ての信頼を寄せて委ねて生きていけばよいのです。聖霊の働きによって人は新しくされます。そして軌道修正され、新たな正道を歩むことができるのです。聖霊は追い風のようにわたしどもを神様へ向かう後押しとしてくれるのです。

信仰によって歩むというのは、何か大きな業を行って歴史に名を残していこうとするような生き方ではありません。神さまの静かな御声に耳を傾けて、それに従って自分に委ねられていることを、忠実に果たしていくことです。自分に与えられた使命を全うさせてくださるのは神さまです。主が自分自身おうちに働いてくださるよう祈り願うことです。自分でなく、神様が働いてくださるように、静かに耐えて待つことです。

自分が為すことは何でしょうか。農夫のように種を蒔くことです。そして蒔いた後は神さまにお任せすることです。そして静かに種の成長を見守り続けることです。人によって蒔かれた福音の種は、神様によって生まれ、大きくなって実を結ぶことでしょう。そして来る収穫の時には、喜びをもって収穫に与れることとなるのです。